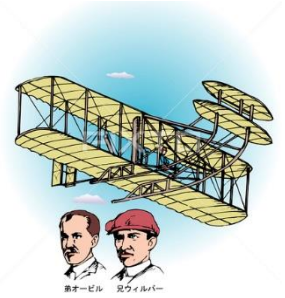


2019/02/14 11:00～ 江東区語学講座 (ELEC) レベルチェックテスト

100問のうち、同意語の問題が15題(76~90)出題されました。

82 playwright = dramatist 83 locate = find 86 launch = start

87 define = explain 88 frequent = regular 83, 86の locate, launch, は TOEIC 頻出単語としてお馴染みなものです。今回は3択のまぐれ当たりが出来た 82 playwright についてです。



**playwright とは**

主な意味	脚本家、劇作家		
音節	pláy · wright	発音記号・読み方	/ - rʌɪt(米国英語)/
playwright の学習レベル	<ul style="list-style-type: none"> <li>レベル：9 英検：1級以上の単語学校レベル : 大学院以上の水準</li> <li>TOEIC® L&amp;R スコア：950点以上の単語 同意語 <a href="#">dramatist</a></li> </ul>		

I am determined to make a living as a **playwright** at all costs.

playwright 「脚本家」は、なぜ playwrite や playwrighter ではないのでしょうか？

[Wikipedia](#) から引用します。

「プレイライト」という発音になる英語の playwright は、「play (プレイ=劇)」と「write (ライト=書く)」が合成されて「playwrite」となり、さらに綴り字が変わった、というわけではなく、全く異なる語源からきている。wright は古い英語の単語で、職人や大工など何かを作る人を意味した(車大工は、wheelwright、cartwright という)。つまり、playwright は、言葉や主題、その他の要素を組み上げてドラマの形にする者、劇を作る職人、という意味である。「書く」ことを意味する write と同音異字になっているのは、全くの偶然である。

[hellog](#) から引用します。 #2117. **playwright** 英語の姓に Wright さんは普通にみられるが、これは「職人」の意味である。普通名詞として単体で wright (職人)として用いられることは今はほとんどないが、様々な種類の職人を表すのに複合語の一部として用いられることはある。比較的よくみるのは playwright (劇作家)である。これは戯曲を書く(write)人ではなく、職人的に作り出す人(wright)である。もし write (書く)に関係しているのであれば、行為者を表す接尾辞(agentive suffix)をつけて writer (書き手)となるはずだろう。ほかにも

*arkwright, boatwright, cartwright, comedywright, housewright, millwright, novelwright, ploughwright, shipwright, timberwright, waggonwright, wainwright, wheelwright, woodwright* などがある。

この wright は起源を遡ると、動詞 work に関係する。この動詞の古英語形 *wyrcan* は「行う；作る；生み出す」など広い意味で用いられ、その語幹に語尾が付加された *wyrhta* (< *wyrcta*) が「職人」として使われた。この語形成は他のゲルマン諸語にも見られ、起源は相応して古いもの

と思われる。wyrhta からは、第1母音と r とが音位転換 (metathesis) した wryhta が異形として生まれ、後に <a> で表される語末母音が水平化・消失するに及んで、現代につらなる wright の母型ができあがった。音位転換は、work の古い過去・過去分詞形 wrought にも見られる。

MED の wright(e (n.(1))) によると、中英語で、この語が以下のようなあまたの綴字（そしておそらくは発音）で実現されていたことがうかがえる。

wright(e (n.(1))) Also wright(e, wrighth(e, wrigh, wri3t(e, wri3th(e, wriht(e, writ(e, writh(e, writht, wreth(e, (N) wreght, (SWM) wrouhte, whrouhte & (chiefly early) wricht(e, (early) wirhte, (chiefly SW or SWM) … 中略… wrohtes, wurhten, (early gen.) wurhtena, (early dat.) wurhtan & (gen. in place names) wrightin(g)-, wri(c)tin-, wrichting-, wrstinc-, uritting-.

また、中英語では *castlewright*, *feltwright*, *glasswright* などに相当する現代には見られない職人名や、*battlewright* (戦士), *Latinwright* (ラテン語学者) などに相当する変わり種も見られた。複合語の人名も、現代まで伝わっているものもいくつかあるが、*Basketwricte*, *Bordwricht*, *Bowwrihth*, *Briggwricht*, *Cartewrychgte*, *Chesewricte*, *Waynwryche*, *Wycchewrichte* など幅広く存在した。

中英語までは *wright* は複合語要素として生産性を保っていたようだが、その後は次第に衰えていき、現在では数えるほどしか残っていない。この**衰退の原因**として、中英語以降にフランス語やラテン語から**新たな職業・職人名詞が流入**してきたこと、*-er* や *-ist* を含む**種々の行為者接尾辞による語形成が活発化**してきたことが疑われるが、未調査である。

ライト兄弟=Wright brothers 例文

The Wright brothers raised the curtain on the age of mechanical flight.

ライト兄弟は飛行機時代の幕を開けた。- 研究社 新英和中辞典

The Wright brothers succeeded in flying an air plane driven by an engine.

ライト兄弟はエンジンで動く飛行機を飛ばすことに成功した。- Tanaka Corpus

Chuhachi NINOMIYA succeeded in an air trial with a model plane with engine in 1891, but he stopped developing an airplane when he knew that the Wright brothers successfully made a two-person airplane.

二宮忠八は1891年(明治24年)に日本で初めて動力つき模型飛行実験に成功したものの、人を乗せることができる飛行機をライト兄弟が実現したことを知り、飛行機開発から離れる。

ライト兄弟=Wright brothers ご存じウィルバー・ライト (Wilbur Wright) オーヴィル・ライト (Orville Wright) というライト家の兄弟二人ということです。名前にライト (Wright) が使われたいわれはわかりませんが、英語の *wright* は、働く人、特に大工、製作者などの意味があります。語源は古い英語の *wryhta* で、同語源をもつ英単語には *work* があり「働く」という意味です。日本では「作田」さんとかそういう類の名前です。祖先はもの作りを大切にす一家だったのかもしれない。それが飛行機製作に繋がった・・・のかも。